

新居浜の都市空間

令和4年1月16日（日）10:00～11:30

元別子銅山文化遺産課長 坪井利一郎

はじめに

有史以来、新居浜の地で幾多のドラマが展開されてきた。先人が織りなした歴史の集積として、新居浜には新居浜の歴史がある。歴史を重ねて来る中で別子の銅鉱床を掘り続け、「モノづくりのDNAが息きづくまち」となった。工都・新居浜、あかがねの町の空間はどのようにになっているのだろうか。

駅前モニュメント

平成25年2月、JR新居浜駅前に「歓喜坑」と題するモニュメントが設置された。銅で二重に巻かれたゲートである。問題はこのゲートを何重として見るかである。外枠と内枠で二重に見える。外枠と内枠の隙間をカウントすると三重に見える。三重に見た人には、向かって右、第一の柱に、天照皇大神、第二の柱に、八幡大菩薩、第三のそれに不動明王があり、向かって左の柱、第一に春日大明神、第二に山神宮大山積大明神、第三に薬師如来があることが認められるはずである。

駅前の新しい「歓喜坑」の中に、元禄4年に開坑した別子山中の元祖「歓喜坑」を見る。歓喜坑から掘り出された銅は、山中で粗銅に処理されて、登り道を下って来て新居浜口屋に運ばれた。銅を掘って以来の283年間の物語が走馬灯の如く脳裏を駆け巡る。

新「歓喜坑」の門の中には、シンボルロードが見える。登り道と斜めに交差して続く。(新歓喜坑の中にシンボルロードを見るポイントに観光案内看板が2枚立っている。実際にはその隙間から見る。見るべきポイントを観光看板が塞いでいるのも皮肉なことである。)鷲尾勘解治が新居浜駅と工場とを結ぶ道路の建設を夢見て着工したが、途絶えた斜め道路である。登り道と斜めに交差して続くその先は惣開の地であり、かつて惣開製錬所があった。惣開製錬所の跡地に建設された新居浜第一火力発電所の煉瓦の建物2棟は、今も化学プラントの中にある。そして、惣開の碑、旧住友銀行新居浜支店跡も残っている。今設置された歓喜坑をパリのラディファンの新凱旋門と見るとシャンゼリゼ通りの4kmかなたに凱旋門を見る。鷲尾勘解治の斜め道路が建設されていたら、登り道との交差点に何らかの新々「歓喜坑」のランドマークを見付けたであろう。惣開にカルーゼルの凱旋門に相当する新々々「歓喜坑」の門が心の中に見えてくる。パリの都市軸と同じく、新居浜にも都市軸がある。

新凱旋門は、シャンゼリゼ通りに対して中心軸を右に振っている。新歓喜坑もシンボルロードに対して中心軸を右に振っている。側面が壁面なので、側面を見せることで景観的に奥行きを出している。

新居浜の心臓部の工場群の向こうに瀬戸内海が続き、海のかなたに世界が開ける。

銅の道を粗銅が別子の山から下りてきて口屋に至り、大阪経由で長崎出島から世界に

輸出されたように、銅の道を銅鉱石が下りてきて、惣開や四阪島で製錬された銅が世界に船積みされたように、新居浜は常に世界に開かれている。

「元禄の開坑から昭和の閉山まで283年間。別子銅山の歴史は、明治維新後の急速な近代化とそれに伴う環境問題克服へのチャレンジや、閉山後の新たな都市づくりなど、まさに“工都 新居浜”を形成する礎と言えます。市内各所にある別子銅山の『産業遺産群』は、先人の英知と苦難の道のりを我々に語りかけてきます。中でも鉱脈発見時、その質の良さに歓喜したとの逸話から名づけられた最初の坑口『歓喜坑』は、まさに”新居浜”的原点であるといえます。本モニュメントは、『歓喜坑』をここ新居浜駅前に“あかがねのまち”的シンボルとして再現しました。周囲は、喜び・希望・未来・夢・愛などの『森の精』に囲まれています。別子山中で緑の木々に囲まれた現地の『歓喜坑』のように。すべては『歓喜坑』から始まり、その坑道は今に続き、そして未来につながっています。」とモニュメントの設置を説明する。

J R 新居浜駅前のモニュメント「歓喜坑」は、シンボルロードに向かって少し右を向いている。デザインした人も、施工監督する職員も机上で考えていて、現場に合わせた考えを持っていない。作家物でない弱みである。駅前ロータリーの植栽枠に設置するようになったので、角度の考察などもともとない。歓喜坑の外枠、空間、内枠の比率も遠近法でない。

ポケットパーク

直交する「銅の道」と「平和の道」座標の交点は0、オリジンである。創造する原点のオリジン。最初の彫刻設置は、このオリジンの位置から始めまった。

「銅の道」は、赤石山中の銅山峰で堀り出された銅が、粗銅となって口屋まで運ばれ、さらに大阪に送られたり、銅鉱石が四阪島に送られたルートである。新居浜市の発展軸である。南北の基幹軸の「楠中央通り」を当てている。別子銅山の銅にちなみ彫刻の素材は金属系としている。

「平和の道」は、愛称道路で「平和通り」と命名された東西の基幹軸の市役所前通りのルートである。別子銅山開坑から遅れること12年の多喜浜塩田が沿線にあった。瀬戸内海の花崗岩地帯に接していて、御代島、垣生山、黒島、大島が花崗岩からなっている。この花崗岩が風化した砂を名古志呂、垣生、多喜浜の塩田で活用した。四国の地層は東西に走っていて、東西軸を投影すると、「銅の道」が東西に走る三波川変成岩に穿つ銅鉱床として見えてくる。「銅の道」に対して彫刻の素材は非金属系としている。

ポケットパーク構想では、まずはこのX軸とY軸の座標を形成し、やがてX軸とY軸で区切られたI、II、III、IV区画が彫刻で埋められて街全体が共鳴するように誘導する都市美の考え方の一つである。

コミュニティ道路のモニュメント、ゆとり都市宣言の記念モニュメント、山根健康運動公園整備での噴水やゲートに彫刻をあしらっている。また、景勝地である別子ラインにはスポットパークとして別子銅山にちなんだ彫刻が設置され「銅の道」が浮かび上がってくる。泉川保育園には柳原義達の「女」、元塚の自彌舎には鷺尾勘解治の胸像、駅前から中

央公園に移転した市民の像などが、「銅の道」をつなぐ。「平和の道」もコンセプトどおりに住友病院前の県道の残地に花崗岩で「学習の木」が整備された。

えんとつ山の煙突の名称で市民に親しまれている旧山根製錬所煙突は、八幡製鉄所が製鉄を始めるより7年前に製鉄を開始したことを今に伝えている。硫酸製造も同時に開始していたので、日本の近代化が鉱山業から重化学工業へ発展した歴史的経緯を物語るモニュメントである。四阪島製錬所の煙突が取り壊されたので、世界で最初に環境問題を解決した一連の物語のモニュメントでもある。

座標

「銅の道」はY軸、「平和の道」はX軸で、斜め道路は $y = -a x + b$ でY軸とX軸に交差する。

斜め道路がJR予讃線に突き当たる駅前エリアでは、区画整理事業の小緑地に端出場鉄橋のポーストリング・ワーレントラスを模したデザインのコンビネーション遊具が設置され、デザインの元になった端出場鉄橋の説明板も設置されている。菊本の終末処理場内にストックしている、かつて別子銅山で使われた機具類が小緑地に設置され、交通広場のモニュメント、シンボルロードのモニュメントが設置されると、質の高い都市空間が、駅前に広がる。すでにシンボルロードでは、市民が家の前に終末処理場内にストックしている「太空500型バケットローター」と関連機械を設置している。シンボルロードで「銅の道」につながり、さらには「平和の道」につながり、駅前から市内へと共鳴していく。

だが、シンボルロードのモニュメントは、コンセプトを読むと必ずしも「過去・現在・未来」に分類できない「あかがねの町・新居浜」をそれぞれがトータル的に表現している。北側の「動くことのないもの」、南側の「成長」は対になっていない。「動と静」なら対になる。「成長」の対は「非成長」で「停滞・衰弱・死滅」。

歓迎の門は、いろいろな要素を過多に組み合わせて分かりにくい。ごちゃまぜごはん的でシンボリック性に欠ける。「?」が向かい合っているように見える。風の旅人が場末の新居浜駅に降り立ち、10万都市に思えない駅前と当惑した昔話を思い出させる。

水のモニュメントは、銅製錬で、水を解けた銅に見立てて別子山から四阪島までの銅の道を表現している。10の受皿は、旧別子・角石原・東平・端出場・立川・山根・星越・惣開・新居浜・四阪島であるというが画一的で個性が消滅している。銅山川のみずを導水して東洋一の落差で端出場に落として発電しエネルギー革命を起こし、新居浜を工業都市として発展させた物語や初代新居浜市長・白石誉次郎は「水は新居浜の栄養素」と熱く語った。母なる水の物語が読み取れない。

JR予讃線と別子鉱山鉄道の交差が、一昔前のY軸とX軸である。さらに昔は登り道がY軸、金毘羅街道がX軸であった。

あかがねの町は「空」

あかがねの町は、別子山中の歓喜坑の1点から始まる。旧別子で作られた粗銅は口

屋に運ばれ、別子銅山と口屋を結ぶ登り道と呼ばれる幹線が現れる。東西の隣接地へ続く平和通りと斜め道路シンボルロードで大新居浜が面として見えてくる。1, 2, 3そして第4の点を取ると、数的調和の新居浜の都市空間が出現する。

1 : 2 : 3 : 4 は 調和の比

1 + 2 + 3 + 4 = 10 聖数の 10

1 × 2 × 3 × 4 = 24 24時間で1日に完結する

南に別子鉱山を仰ぎ、北に瀬戸内海に臨む町が新居浜である。別子山から新居浜へ銅が運ばれた。煙突山の山裾の別子銅山記念館の前には、16代住友家長・友成の「**この鉱山を 神とし仰ぎ 幾代かも 挖りつぎて來し ことの畏こさ**」の歌がある。2つの緑泥片岩の間に別子大鉱床が胚胎していることを表現した上に、この歌が鋳込まれている。

菊本の自彊舎記念小公園には、緑泥片岩に「**自彊不息**」と鷺尾勘解治の字が彫られている。昭和2年、別子銅山の利益が銀行の1/6となり、直営の別子鉱業所が住友別子鉱山株式会社になった。その披露宴の席で、鷺尾常務から「鉱量調査の結果、別子銅山の鉱石は残り17年分しかない。」と発表した。銅を掘り尽くした後の姿が予告された。

新居浜市の都市軸「銅の道」は、銅の有無を碑石で示している。有も無も超越した絶対無の町を示す。「無」は道教の概念だから、禪でいうと「空」である。とらわれることを無くすと無限に広がる。

未来に向かって無限に発展する町である。

新居浜市は日本国内に点在している都市の一つである。人口を指標として各都市を見ると、社会状況を反映して絶えず変化している。増加傾向か減少傾向に大別される。都市人口は無常である。人口過増の最たる所は東京である。人口の過疎の最たる所の一つが、旧別子山村であった。しかし、新居浜市の人口は12万人～13万人の幅で推移してきた。時間軸で見ると半世紀にわたり人口が安定している。常の状況を保ち都市本来の面目を呈示している。多分、世界的にもまれに都市である。

無一物中無尽藏 花有月有樓台有り

ポケットパーク

① 犬の見た夢・別子 所沢市 佐々木実

新居浜市を象徴する別子銅山の採掘及び運搬をテーマとし、別子開坑300年という歴史的背景を含んだ彫刻である。下の部分より鉱石を採掘し、掘った斜坑から馬を使って引き揚げ、再び仲持ちによって口屋へと運搬される様子を物語っている。階段中央の犬は人間社会を外から見つめる第三者的存在で、製作者自身でもある。台座は銅製錬の過程で出るカラミを鋳型に入れて作ったレンガである。台座の中の碎石は瀬戸内海に見立て、カラミレンガは四阪島を表現している。

② リズム&ハーモニー 所沢市 佐々木実

新居浜市の入り口にあたる場所であるため、明るく健康で、かつ力強く表現した彫刻である。西側のリズムは、傾斜した四角柱の上部にうねりのあるリズミカルな等高線の形状があり、これらは雲、水、山もある。東側のハーモニーは、2つの四角柱がもたれあって

一体となっており人間社会の調和である。

③ 女の子・二人 今治市 阿部誠一

二人の女の子が何事かを腰かけて話し合っており、「何をはなしているのだろう。自分も参加してみたい。」そんな気持ちをおこさせる彫刻である。二人の女の子の間には、話に参加する空間をも設けてある。そこで友達のこと、学校のこと、将来のこと等を話し合ってもらいたい。

④ 自然の恵みに 今治市 宮内宏

新居浜市は、元禄4年の別子開坑という大きな自然の恵みによって発展してきた。それと同様に、私たちの生活も様々な自然の恵みによって営まれている。そのような様子を中心の子供の像と周りを取り囲む自然の姿(太陽、月、雲、風、魚、虫、花、双葉)で表現した彫刻である。9本の柱は、新居浜市が将来に向かって発展する様子を物語っている。

⑤ WELL (うねり) 松山市 相原誠則

新居浜市を代表する太鼓祭りのかき夫のイメージをもとに、工都・新居浜の回顧と展望、そして別子の山々と燧灘を石組みのうねりにより表現した彫刻である。また、やがて訪れる新しい時代に向けて新居浜市が大きく飛躍することをうねりにより表現した彫刻でもある。

⑥ 陽の中で 西条市 近藤哲夫

宇宙は一人ひとりに無限の可能性を与えてくれた。少年、少女よ、その宇宙に向かって自由な心でおもいっきり羽ばたいて欲しいとの願いを込めた彫刻である。

⑦ 萌えいづる 松山市 堀内健二

新しい時代に向かって新居浜市の力強い建設の息吹を象徴する彫刻である。未来を創出する新居浜市民のエネルギーを双葉が天空に伸びていくイメージで表現し、優しさと明快なフォルムを御影石によって追求した。

⑧ 夢はるか 京都市 谷口淳一

夢というものはすぐにやってくるものではなさそうです。でも、遥かな夢を追い求めて生きることの素晴らしいを、美しいこの街で皆様とともに多く夢を膨らませて語り合えることを心より願がっております。

⑨ め(慧眼) 宇和島市 藤部吉人

別子銅山と共に発達してきた工業技術を形象した銅の彫刻と、春を待つ石彫の木の芽は伸びていく新居浜市の希望と恵まれた自然を表す。それぞれのモニュメントが交差する組み合わせは、人と自然とが一体となり生命ある調和のとれた町とし発展することを願ったものである。

- ⑩ 青春譜** 福山市 松岡高則
揺れ動く青春・・・・・静かにたたずむ姿、その内に秘めた芯の強さ、明日に向かってまぶしく輝く少女像に新居浜市の発展と文化の高揚を託してみた。
- ⑪ 風** 東京都世田谷区 石田光男
一陣の風が吹き抜けていった。女は歩みを止め、しばらくたたずむが、顔を上げいすくともなく消えて行った。ほのかな香りが後に残り、その面影を追い求めた。
- ⑫ 長い衣の女** 小金井市 笹戸千津子
現代を生きいきと生きている女性の内に秘めた、たくましさ、優しさを像に語らせせることができればと「長い衣の女」に想いを託してみた。ここを訪れる人々とともに、この女性が憩いながら爽やかな空間を醸し出してくれればと願いを込めて。
- ⑬ 学習の木** 新居浜市都市計画課
生涯学習都市宣言を記念して、一生涯にわたって学習することを人生と学習の木の成長で結実することを面的に表現した。

スポットパーク

- | | | |
|--------------------|----------|-----------|
| ⑭ 製錆 (生子橋) | 今治市 阿部誠一 | 鼓銅図録からの造形 |
| ⑮ 仲持ち (端出場) | 今治市 阿部誠一 | 鼓銅図録からの造形 |
| ⑯ 仲持ち (遠登志) | 今治市 阿部誠一 | 鼓銅図録からの造形 |
| ⑰ 採掘 (清滝) | 今治市 阿部誠一 | 鼓銅図録からの造形 |

※鼓銅図録の挿絵をモチーフにしている。

あかがねの小路

イオンの東側には、かつて住友鉱山鉄道新居浜港線が走っていた。市道・前田社宅東筋線の東側歩道には、「別子銅山絵巻」の13巻のレリーフが設置されている。
南から、別子銅山全景の図、坑内入り口の図、水場の図、採掘場の図、碎石小屋の図、焼きかまの図、素吹床の図、銅を取るの図、仲持の図、真吹の図、棹吹の図、淘汰(ゆりもの)の図、新居浜口屋の図が並んでいる。

おわりに

茶人が四畳半の方丈サイズに小宇宙を見るように、新居浜市民は、別子の山から新居浜の野まで、延長して四阪の島までに一つの小宇宙を見る。

山根の山麓に「有」のモニュメントを見て、菊本の渚近くに「無」の記念碑を見る。そして、瀬戸内海に浮かぶ島では、煙の中に亜硫酸ガスを見たが、人間の英知で亜硫酸ガスを無くして2度と見ることが出来なくした。そして、別子銅山が生んだ「モノづくりのDNA」が生き続けSDGsを体現している。